



日本労働ペンクラブ
事務局長

中川 隆生

勢を示すとチャンスをつく（一般職）を行った企業姿勢を見せている。逃してしまふ。頑固に業は13・9%。前年よ要求を貫くことが肝要だ。

厚生労働省が11月28日に発表した2013

朝日新聞11月24日付

年の賃上げ実態調査に
よると、賃金引き上げ
とどまっている。
朝日新聞11月24日付
の全国主要100社調
査によると、ベアを
狙いはともかく、労働

頑固に要求貫徹を

景況回復の成果獲得の好機

アベノミクス効果な
のかはともかく、景気
回復の堅調な足取りを
追い風にした2014
年春闘は、生産性三原
則の「成果の公正配分」
を獲得する好機であ
る。ただ、経営側に対
し、物わりの良い姿

（予定を含む）した企
業は前年比4・5ポイ
ント上昇し79・8%
と、2007年（82・
8%）に次ぐ高水準に
なった。

側にとって適正な成果
分配を反映した賃上げ
を実現する好機なのは
言うまでもない。「賃
上げ」の中で社会性が
あり、波及力のあるの
組合」を見直すことに
もつながるのではない
だろうか。

しかし、定期昇給制
度のある企業で、ベ
ー5割強が何らかの形
でアップ（管理職を除
賃金水準を引き上げ
る。だが、経営側は人件

費負担が固定化される
ベアを避け、ボーナス
などで「成果配分」を
フレキシブルにする傾
向を強めてきた。連合
など労働側も「雇用確
保が大事」などとベア
の要求すらしなかつ
た。

こうした「物わりの
の良すぎる」姿勢から
脱却し、きちんとベア
を要求し、貫徹する。